

競技注意事項（案）

（トラック&フィールドの部）

1. 競技規則について

本大会は2017年度日本陸上競技連盟競技規則、並びに本大会申し合わせ事項に従って実施する。

2. 招集について

(1) 第1次招集は、ヤンマースタジアム長居メインスタンド側室内練習場内の競技者係にて行う。選手本人がユニフォームを着用した状態で集まり、胸・腰ナンバーカード、スパイクの確認を受けて第1次招集を完了とする。確認後は第1次招集終了時刻まで競技者係にて待機すること。

(2) 第1次招集完了後、選手は競技者係の補助員の誘導で現地まで移動する。なお、第1次招集終了時刻に間に合わなかった者は欠場として扱う。（「3.欠場について」参照）

(3) 5000m、10000m、10000mW に関しては、第1次招集時に腰ナンバーカードと番号をあわせた長距離専用別ナンバーカードを配付する。また、長距離専用別ナンバーカードは競技終了後、必ず腰ナンバー回収係に渡すこと。

(4) リレー競技の第1次招集は、出走者4名全員が受けること。

(5) 同一時間に2種目以上出場する競技者、および競技中のため他の種目の第1次招集を受けられない競技者は、第1次招集終了時刻までに重複出場届を競技者係に提出すること。

(6) 重複出場届を提出した場合も、必ず本人または代理人が第1次招集を受けなければならない。その際、重複出場届の控えを持参すること。

(7) 第1次招集は、競技者係にて下記の通り行う。

種目	招集開始時刻	招集終了時刻
トラック競技	競技開始30分前	競技開始20分前
フィールド競技（下記以外）	競技開始60分前	競技開始50分前
棒高跳	競技開始90分前	競技開始80分前

(8) 混成競技は、両日共に第1種目のみ上記の第1次招集時刻に従い、競技者係にて招集を受けること。第2種目以降の招集は現地にて行う。時刻等は「十種競技申し合わせ事項」および「七種競技申し合わせ事項」に従うこと。

(9) 第2次招集（現地コール）は、各種目スタート地点にて下記の通り行う。

種目	招集開始時刻
トラック競技	競技開始10分前
フィールド競技（下記以外）	競技開始30分前
棒高跳	競技開始60分前

(10) リレーオーダー用紙は、第1次招集開始時刻の60分前までに競技者係へ提出すること。リレーオーダー用紙を提出しなかった場合、そのチームは欠場とみなす。（「3.欠場について」

て」参照)

- (11) リレーチームの編成は、必ず当該リレーチームでエントリーしている者が2名以上含まれていなければならない。決勝も同様である。(競技規則第170条10項)
- (12) リレーオーダー用紙提出後の選手変更は、本大会の医師、医務員の判断がない限り認められない。この規則に従わなければチームは失格となる。(競技規則第170条11項)
- (13) リレーオーダー用紙・重複出場届・当日欠場届は受付および競技者係にて配布する。

3. 欠場について

- (1) 事前に欠場者が判明している場合は、5月7日(日)18時までに事前欠場者届を関西学連事務所まで提出すること(FAX可)。事前欠場は代表者会議にて承認する。それ以降の欠場は原則として認めない。提出後は必ず関西学連事務所まで電話確認を行うこと。
- (2) 当日欠場は原則として認めない。ただし、やむを得ない場合に限り、当該種目の競技当日に当日欠場届を大会本部の総務に提出して承認を得ることで欠場が認められる場合がある。この場合、総務より当日欠場届の下半分を受け取り、当該種目の第1次招集終了時刻までに競技者係に提出すること。
- (3) 当日欠場届には、監督および本人のサインを記入すること。ただし、大会当日に監督が不在の場合は、事前に監督代行届を提出している場合のみ、申請した代理人の署名を認める。
- (4) リレー競技の当日欠場についても上記の手続きを満了し、第1次招集開始時刻の60分前(リレーオーダー用紙提出締切時刻)までに当日欠場届を提出すること。
- (5) 混成競技において途中棄権する場合は、必ず混成競技係に申告の上、当日欠場届を早急に総務および競技者係に提出すること。
- (6) 当日欠場届未提出およびコール漏れ(現地招集を含む)については、1名につき種目ごとに所属大学の総合得点より1点の減点を行う。また、リレー種目についても(オーダー用紙未提出含む)同様に1チームにつき所属大学の総合得点より1点の減点を行う。

4. 競技者の服装について

- (1) 同一大学は、事前に学連に提出した同一のユニフォームを着用すること(提出したユニフォームと異なれば出場を認めない)。これはリレー競技に限らず、すべての種目について適用する。提出したものと異なる形状のユニフォーム(トップスとショーツなど)を使用する場合も、色・デザインを統一させること。
ただし、2015年4月1日からの規定変更に伴いユニフォームの変更を行っている大学は、申請を行えば変更前と変更後の複数のデザインのユニフォームを認める場合がある。
- (2) ナンバーカードは必ず本大会用のナンバーカードを使用し、ユニフォームの胸部および背部に折り曲げたりせずに明瞭につけること。ただし、跳躍競技においては胸部または背部の一方だけでよい。
- (3) 5000m・10000m・10000mWに関しては、第1次招集時に受け取った腰ナンバーカードと番号を合わせた長距離専用別ナンバーカードを使用すること。
- (4) 全てのトラック競技の腰ナンバーカードは右腰に明瞭につけること。4×400mRのみ両腰

につけること。腰ナンバーカードは第1次招集時に競技者係にて配付する。腰ナンバーカードは競技終了後ゴール地点で返却すること。途中棄権などで競技を中止した場合も返却すること。

- (5) 混成競技の各日最終種目の腰ナンバーカードは、現地招集時に現地にて受け取ること。
- (6) 使用するスパイクのピンの長さはトラック・フィールド共に9mm以下とする。ただし、走高跳およびやり投については12mm以下とする。(競技規則第143条4項)

5. 競技用器具について

- (1) 使用器具は原則として競技場備え付けのものを使用すること。ただし個人所有の投擲物使用を希望する場合は、競技開始の90分前から60分前に検定を受けて許可を受けなければならない。検定はヤンマースタジアム長居内のゴール側器具庫で行う。ただし、検定時間が開門以前となる場合には、正面玄関にて検定を行う。
- (2) 棒高跳用ポールは各自で持ち込んだものを使用すること。

6. トラック競技について

- (1) 計時について、トラック競技の計時は写真判定(0.01秒)とする。ただし、装置に故障等のトラブルが生じた場合、手動計時(0.1秒)とする。
- (2) 組編成のためのランキングの順位を決定するときや次ラウンド進出のための最後の1枠を決めるにあたり異なる組で同成績がいる場合、0.001秒の実時間を考慮して決定する。(競技規則第167条2項)
- (3) 短距離競技のゴール後は、競技者の安全のために自分に割り当てられたレーン(曲走路)を走ること。
- (4) 5000m・10000m・10000mWに関しては、制限時間を設ける。各レーススタート後、次に記載している時間の経過時点で残り1周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。

	5000m	10000m	10000mW
男子1部	17分	34分	55分
男子2部	18分	36分	55分
女子の部	20分	40分	60分

- (5) 5000m以上の競技において気象状況により給水を行う場合がある。

7. フィールド競技について

(1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目	種別	ピット	試技開始	備考
走高跳	1部	Aピット	1m85	2m10まで5cm刻み、以降3cm刻み
	2部	Bピット	1m80	2m10まで5cm刻み、以降3cm刻み
	女子	ABピット	1m45	1m60まで5cm刻み、以降3cm刻み
	十種競技	Aピット	1m70	1m90まで5cm刻み、以降3cm刻み
		Bピット	1m45	
	七種競技	Aピット	1m45	1m60まで5cm刻み、以降3cm刻み
Bピット		1m25		
棒高跳	1部	ABピット	3m80	4m80まで20cm刻み、以降10cm刻み
	2部	Aピット	3m60	4m60まで20cm刻み、以降10cm刻み
	女子	Aピット	2m40	3m60まで20cm刻み、以降10cm刻み
	十種競技	Aピット	3m40	4m00まで20cm刻み、以降10cm刻み
		Bピット	2m60	

- (2) 走高跳・棒高跳の練習の高さは当日、選手と審判員の協議により設定する。また、悪天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長・ヘッドコーチの協議により設定の高さを変更し競技を行う場合がある。
- (3) 1位決定試技の際のバーの上げ下げは、走高跳を±2cm、棒高跳を±5cmとする。
- (4) 競技者が1人となった場合のバーの上げ方は、本人の希望により決める。ただし、2つのピットに分かれている場合は、両ピットを通じて1人になった場合に限る。
- (5) 三段跳の踏切板の位置は、男子は13m、女子は11mとする。
- (6) 棒高跳の公式練習を行う際はゴムバーを使用する。
- (7) 投擲種目の公式練習は2回までとする。ただし、ハンマー投および混成競技の投擲種目は1回とする。
- (8) フィールド競技において、それぞれ試技に制限時間を設ける。その際審判員がストップウォッチにて時間を計測する。
- (9) 現場の審判員が許可を与えた上でコーチ席にアドバイスを聞きに行くことができる。しかし、審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務・ヘッドコーチ等で協議し対処する。(競技規則第144条2項)

8. 混成競技について

別紙「十種競技申し合わせ事項」および「七種競技申し合わせ事項」に従うこと。競技時間の遅れなどは、アナウンスで連絡する。

9. 開閉会式・表彰について

- (1) 開閉会式の際は、全参加大学とも開式15分前にクラブ指定のジャージを着用し、部旗を持った旗手を先頭に整列すること。人数は各大学任意とする。ただし、閉会式については各種目において優勝した者は必ず出席すること。なお、雨天時は屋内にて行う。その際は各大学の参加者は3名程度とし、部旗を持って出席すること。
- (2) 各種目3位までに入賞した競技者は表彰を行う。競技終了後、表彰係の指示に従い中央エントランスに集合すること。また、表彰の際はクラブ指定のジャージを着用すること。

10. 対校得点について

- (1) 各種目の対校得点及びボーナス得点は下記の通りとする。なお、ボーナス得点は1選手につき全ラウンドを通じて1回限り、該当する最大得点のものを与えるものとする。

[対校得点]

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
対校得点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

[ボーナス得点]

日本新記録	30点	日本タイ記録	25点	日本学生新記録	20点
日本学生タイ記録	15点	関西学生新記録	10点	関西学生タイ記録	7点
大会新記録	5点	大会タイ記録	2点		

- (2) 総合得点が同点の場合は、優勝種目数の多い大学を上位とする。優勝種目数が同じ場合は2位種目数の多い大学を上位とし、以降3～6位まで同様に比較する。以上の点で同じ場合は同順位とする。
- (3) エントリー時点で出場が3大学以下または7名以下となった種目についてはオープン種目として扱い、得点対象としない。

11. ドーピング検査について

- (1) 出場競技者にドーピング検査を実施する。
- (2) 選手は、ドーピングコントロールオフィサーおよびドーピング通告員の指示に従い、ドーピング検査を受けなければならない。
- (3) ドーピング検査対象者が未成年の場合には必ず成人した者が付き添うこと。

12. 抗議の申し立てについて

- (1) 競技の結果または競技実施に関する抗議は、結果が正式に発表（アナウンス）されてから、同一日に次のラウンドが行われる場合は15分以内に、それ以外の場合は30分以内に、その競技者あるいはチームの監督が口頭で審判長に申し出なくてはならない。（競技規則

第146条2項、3項)

- (2) 審判長の裁定に不服な場合は文章と委託金10,000円を添えてジュリーに上告する。この抗議はジュリーが即決し、その結果は最終的なものとなる。(競技規則第146条7項)

13. 競技場使用の注意

- (1) 全日、開門予定時刻はヤンマースタジアム長居(1階正面玄関・2階南ゲート)が午前8時30分、ヤンマーフィールド長居(マラソンゲート)が8時30分とする。時刻は当日変更する場合がある。2階南ゲートは8時30分から抽選順に5秒間隔で入場すること。その際、1大学につき2名まで入場を認める。違反した大学は厳重に処罰する。
- (2) 横断幕・のぼり・テントなどはテープ類を使用せず紐等で固定し、全日とも競技終了後は速やかに撤去すること。
- (3) 競技場周辺の場所取りは一切禁止とする。また、屋内(招集場所)・更衣室内に荷物やシート類を置いての場所取りも禁止とする。
- (4) 入場順は5月9日(火)の代表者会議にて抽選を行うので、希望大学は参加すること。
- (5) ポール・やりの事前郵送は認めない。ポール・やりの輸送に関しては、各団体の責任で行うこと。なお、郵送をする場合は下記の宛先、期日・時刻に設定すること。下記以外の期日・時刻に郵送することは禁止とする。また、受取の際には各大学代表者1名が立ち会うようにすること。

【宛先】〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-1 ヤンマースタジアム長居

「第94回関西学生陸上競技対校選手権大会」

【期日】平成29年5月10日(水) 10時00分着

※保管場所は4日間通じて競技場正面玄関ホールとする。ただし、保管中に破損などがあったとしても、主催者は一切責任を負わない。

ポール・やりの返送に関しても各大学の責任で行うこととする。ポール・やりを保管場所に置いている大学は5月13日(土)16:00までに受け取りに来ること。なお、郵送をする場合は業者の来る期日・時刻を事前に関西学連事務所まで連絡すること。

- (6) 全日程において、競技(閉会式)終了30分後に閉門するので、速やかに退場すること。
- (7) ごみは各自で持ち帰ること。
- (8) 大会運営に支障の出る応援が行われている場合には、応援を制限することがある。その際には現地の指示に速やかに対応すること。
- (9) メインスタンドでの集団応援は終日禁止とする。

14. その他

- (1) 参加校は学生審判および学生補助員の派遣要請に基づき、定められた数の学生審判および学生補助員を派遣すること。学生審判の服装は正装とし、公認審判員カードを着用して審判にあたること。受付にて配付する名札と腕章も着用すること。学生補助員はクラブ指定のジャージの着用のみを認める。派遣しなかった大学は以降の出場を認めない。

- (2) 悪天候等により競技の続行が難しい場合、総務・審判長・関西学連会長・ヘッドコーチの協議によって、大会を中止する場合がある。
- (3) 競技場内へ立ち入る際、競技場保護のためヒール等の底の固い靴は一切禁止し、アップシューズもしくはスニーカーで入場すること。学生審判・補助員も同様とする。
- (4) 競技者は競技区域内にビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を持ち込めない。(競技規則第144条3項)
- (5) 競技中に発生した障害、疾病についての応急処置は主催者側で行うがそれ以降の責任は負わない。ただし、2017年度(公社)日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
- (6) 荷物の管理は各自で行うこと。紛失、盗難に関して主催者側は一切の責任を負わない。
- (7) 注意事項及び学生競技者としてのマナーを逸脱した行為などが見受けられた場合、その学生の所属する大学の以降の競技を中止させ処罰を与える。
- (8) 競技場器具を破損した場合、当該競技者の所属大学より必要代金を徴収する場合がある。
- (9) 大会期間中に疑問な点があれば、大会本部まで申し出ること。

関西学生陸上競技連盟